

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人 幕別真幸協会		
事業所名	グループホーム くつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1		
自己評価作成日	令和 6 年11月28日	評価結果市町村受理日	令和 7 年 1 月 21 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600205-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 6 年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して、元気に健やかな生活が送れるように日々支援しています。くつろぎの家の日常生活の中で、洗濯物干し、拭き掃除、食材の下ごしらえ、食事前の嚥下体操、歩行訓練など積極的に、機能訓練に取り組んでいます。コロナウイルス感染対策も緩和され、野外での行事、焼肉、花火大会、ドライブを行い、大変喜んで頂けました。施設内での行事は、利用者様のお誕生日会、お菓子作りなどを実施し、「食」にこだわりました。ご家族との面会も、窓越し面会から、対面面会へ変更し、時間、人数制限をして、居室でゆっくり過ごして頂くようにしました。外出、ご家族宅での食事、買物も実施しました。避難訓練は、火災、水害を想定した訓練を実施し、各々が冷静に落ち着いて対応できるよう努力しています。今後も、利用者様の健康管理、感染予防を継続して行い、元気に過ごして頂けるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、近隣に公園があり、市街地にも程近い閑静な住宅街に立地し、散歩にも適した場所にある。母体法人は、多くの介護保険施設を運営し、蓄積されたノウハウを生かしながら質の高いケアに努めている。20年以上前から地域との交流があり、大家が運営するサロンなどとの交流も今後期待されている。職員は日常生活で利用者の出来ることの継続を大切に支援に取り組んでいる。利用者は女性が多く、もやしのひげ取り、食材の下ごしらえ、洗濯物を干したり、たたんだりなど、役割として継続し、達成感や充実感に繋げている。施設内のディールームでくつろぐ利用者の表情はとても穏やかで笑顔に溢れ、満足されている様子である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念を提示して、スタッフが日頃から意識できる様にしたり、毎月のスタッフ会議で、全員で唱和している。	事業所内の壁面に掲示し、毎月のスタッフ会議時に唱和して、管理者と職員は共有し、実践に繋げている。ケアの根幹である理念に、常に立ち返ると共に、時代の変化や環境に即したものであるか、現状に合っているかなど検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染対策により、町内会、保育所との親睦を図る事が難しかったが、今後は、徐々に交流を深めていきたいと思う。	町内会活動に再開の見通しがあり、会議に参加している。散歩や買い物に出掛ける際に地域の方々と挨拶を交わしたり、会話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染対策により、地域との親睦を図る事が難しかったが、今後は、徐々に交流を深めていきたいと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、施設職員、家族代表、大家、町内会長、地域包括支援センター職員が参加し、行事、事業報告など行った。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。写真付きで事業所の行事、活動報告、ヒヤリハットや改善対策、入居状況などを報告し情報交換や話し合いをしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からのメールを毎日確認し、市の担当者とは、必要に応じて連絡を取っている。	介護認定更新・区分変更時に地域高齢課と連絡を取っている。生活保護受給者の担当ケースワーカーとは受診時に情報交換し、病状について共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての会議は、定期的に法人全体の委員会に参加している。玄関の施錠は、日中は、行っていない。	身体拘束適正化委員会は3ヶ月毎に法人が開催し、担当委員が参加している。会議や研修の内容をスタッフ会議で全職員に周知している。センサーマットの使用はケアプランに明記して本人、家族に説明し定期的にモニタリングをして必要性の有無を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の会議を定期的に行い、虐待についてもスタッフ全員で話し合いをしている。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度の対象となる利用者は、入居されていないが、今後、必要性が求められる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、利用者様、ご家族が安心して、理解、納得して頂けるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメール、または面会時に、近況や通院後の結果などを報告し、ご家族から要望を伺っている。	意見箱を設置している。家族からの意見、要望の聞き取りはメール対応の他に、電話や面会時に管理者、職員が把握し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催し、業務や利用者様の事を話し合い、意見交換している。	法人からの伝達は社内情報ツールを利用し閲覧、相互に確認することができる。重要な内容は管理者から定例スタッフ会議で周知している。職員からの意見や要望などは管理者から施設長へ相談し易い環境である。	人員不足が続いている。大切なことは残しながら業務の見直しや改善など職員全員で検討し意見を出し合い運営に反映させる。職場環境がより良くなるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や思いを聞き取り、どんな事も相談できる風通しの良い職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体と連携し、研修委員を中心に、内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。交流や勉強会を通じ、サービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にくつろぎの家の見学を勧めている。ご本人、ご家族から生活状況を伺い、新生活への支援に向けたニーズの把握、不安や疑問の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員から不安な事や要望などを伺い、ご家族に話をさせて頂いている。細やかな情報の共有をし、安心と信頼のある関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの実施に向け、ご本人やご家族の意見、要望を聞き、各機関と連携しながら実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持つ個性を活かし、意見を尊重しながら、本人にとって最も住み良い生活に少しでも近づける様に支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や電話で身体状況や病状の報告、行事の様子などをお伝えしている。必要に応じて、面会を実施(時間、人数制限あり)し、家族との関係が希薄にならないよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	マスクの着用など感染予防に努めながら、近隣を散歩したり、ドライブなどをして、利用者の気分転換ができる様に支援している。	コロナ5類以降、墓参りや法事などの希望者は親族と共に参加し、交流を再会している。家族の協力のもと、馴染みの美容室で髪染めやカットをしている。四季に合わせて馴染みの桜や紅葉を見にドライブで楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の間に入り、談笑したり、レクレーションを通じてお互いの人間関係が深まるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じてご本人、ご家族からの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意向をふまえた上で、ケアプランに反映させている。	入居時に以前のケアマネジャーや施設職員から生活歴、本人の思い・意向を聞き取りしている。入居前に見学に来てもらい暮らし方の希望を把握している。コミュニケーションが困難な場合は仕草や表情で気持ちを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聴取や、これまでの経歴を参考に、情報を把握し、利用者様とコミュニケーションを取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人が穏やかに過ごせるよう、その時々に応じたケアを行うよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の生活から見えた利用者様の状態をスタッフ間で共有し、話し合い、まとめたものをケアプランに反映させている。	半年毎、状態変化時は都度ケアプランを見直している。3ヶ月毎にモニタリングをし、担当職員や担当医、ケアマネジャーなどで立案し、家族からの要望等を聞き取り、現状に即したケアプランを作成している。個人ファイルに保存し日々のケア記録に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には、誰が見ても分かるように細かく、記載するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染症対策を講じながら、出張美容サービスの利用をしたり、町内会の回覧板などで、地域との繋がりをもてるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力を得ながら、外出したり、散歩に出かけ、地域資源を活用しながら、豊かに暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿って受診や往診ができるよう行っている。委託薬局との連携もこまめに取り、適切に支援できるようにしている。	かかりつけ医への受診は家族の協力のもと継続している。専門医や緊急な受診は職員が対応し受診内容を家族へ報告し共有している。訪問診療や訪問薬局の利用も含めて適切な医療を受けられるよう支援している。	

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不調の利用者がいた時は、協力病院に連絡し、状態を報告し、看護師の指示に従い、必要に応じて、往診に来て頂いた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を取り、現在の状態など聞き、必要に応じて、面会に行くなど病院と情報を共有した。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した時の対応をご家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態をみて、スタッフやご家族と話し合いを行っている。	入居時に本人と家族へ重度化の指針を説明し同意を得ている。事業所で出来ることを説明し要介護度3以上になった場合は特養などへの申し込みを家族に提案している。できる限り安心して穏やかに生活できるように家族を含め主治医とチームで話し合い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、急変や事故発生時に対応できるよう定期的に研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の計画表を作成しており、昼夜の避難訓練を実施している。非常呼集は、大家、町内会長が参加している。	火災や水害を想定して計画に基づき定期的に避難訓練を行っている。新規採用職員は法人で教育を受けている。訓練時には施設の大家や町内会長も参加し地域との協力体制を築いている。1週間分の飲料水や食料、暖を取る備蓄の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者に対しての言葉使いやケアに対して考え、一人一人に合った声掛けを行っている。	入浴、排泄、更衣の場面で特にプライバシーを損ねない対応に努めている。援助が必要な場合も本人の気持ちを大切に、できることを支援し、さりげないケアを心がけている。利用者に合わせてゆっくり優しく声をかけるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞き取り、その考えに添えるようケアを行っている。おやつの種類がある時は、利用者を選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに添えるよう話を聞き、安心して暮らせるよう支援している。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容室を利用して頂いたり、化粧品を購入している。季節に合わせた洋服を着て頂いて、お洒落を楽しむことが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中で食事は楽しみの一つです。一人一人の好みを活かしながら、粥、刻み食など個々に合わせた形態で、提供している。	法人の管理栄養士がメニューを作成し、食材はネットスーパーなどから2日分届いている。利用者とともにできる範囲で一緒に下ごしらえや準備、片付けを行っている。行事や誕生食には希望を取り入れ、好物を提供する等、楽しみや喜びになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は、把握している。水分摂取が難しい時は、時間を置いたり、ご本人に合わせた飲料を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを行い、難しい時は、支援も行い、口腔内の清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を職員が把握し、個々の身体状態、時間で声掛けをし、誘導している。	数名が紙パンツやパットなどを使用している他は声かけや誘導のみで自立している利用者が多い。病院に入院し紙パンツで退院になった利用者も個別にじっくり関わることで自立に結び付いたケースがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、便秘にならないよう運動(体操)したり、水分を多く摂るよう促している。便秘時は、座薬や下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者にとって楽しみの一つになっている。週2回の入浴を実施しているが、拒否がある時は日にちを変えるなど利用者の思いに合わせている。	利用者は週2回の入浴を楽しみにしている。スタッフとの会話を楽しんだり、ゆっくり湯船につかる時間を調整したり、危険がなければ入浴、洗身動作も本人に任せて見守るなど利用者に合わせて工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々に合わせて運動や軽作業を行い過ごされ、就寝時間は、決めておらず、自由に自室に戻り、休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、委託薬局が管理している。処方内容が変更になった時は、担当が薬を確認し、変化があれば、その都度、医師に相談している。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った作業を協力して行っている。暖かい日は、散歩、ドライブなどし、室内行事も楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に協力して頂き、外出や外食し、気分転換をしている。出来るときに散歩やドライブなど積極的に行っている。	コロナ5類以降、散歩やドライブなど、楽しむ機会が増えている。事業所前での庭カフェ、焼肉やすいか割り、花火大会などを行い短時間でも戸外に出る機会を作り、気分転換や五感刺激を得よう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご本人、ご家族に了承してもらい、施設で管理している。病院受診の帰りに買い物された利用者もいた。ご本人が要求した物品を担当スタッフが、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時は、電話のやりとりが、いつでもできるように支援している。携帯電話を持ち込んでいる利用者もあり、自由に使用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気を配り、観葉植物を置いたりしている。利用者が過ごしやすい空間作りを心掛けている。	共用スペースには喫食とテレビなどを見る場所があり、食後はほぼ全員が自分の気に入ったソファなどに座ってゆっくり過ごしている。温度、湿度、換気に留意して、清潔に整理整頓され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が自由に過ごせるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にご本人の好きな物や、愛用している物を置き、一人の時間を居心地良く過ごせるようにしている。	特殊寝台、チェストなどは事前に設置されている。入居時には自宅で使用していた枕、椅子やテーブル、仏壇などを持参している。花や家族写真、家族が書いた絵を飾り、テレビ、ぬいぐるみなども持ち込んでいる。身体状況に合わせて手すりなども設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員と一緒に、洗濯物干し、拭き掃除、食材の下ごしらえなどを実施し、一人でも可能な事は、できるように支援している。		